高野山真言宗　臥龍山修学院
高家寺　寺報
星の声
令和八年二月一日　第八十四号
責任編集　高家寺　住職　北川宥智
岐阜県各務原市那加北洞町一丁目三九〇
TEL 058-371-2821　FAX 058-383-6328
E-mail　osho@kokeji.com

令和八丙午年
覚悟



令和八年は、丙午（ひのえうま）年。「丙」は、太陽のようなはっきりとした火。隠れていたものを照らし、迷いを焼き払い、物事を前へ進める力です。

一方の「午」は、午前午後というように真昼を意味します。また、止まらずに進むことの象徴。走る馬は、振り返りません。前を向き、自分の進む道を信じて進みます。

丙午の年は、とかく強い年と言われがちですが、本当の意味は「勢い」ではありません。覚悟が試される年なのです。

干支の裏側である納音（なっちん）は天河水（てんがすい）。空を流れる大きな川――天の川の水。地面を流れる川とは違い、どこから来て、どこへ向かうのか、すぐには分かりません。けれど、確かに流れています。見えなくても、止まることはありません。

天河水の年とは、「先が見えなくても、流れを信じて進む年」。だからこそ、覚悟が必要なのです。

覚悟というと、歯を食いしばること、無理をすること、と思われがちですが、リキむことではありません。

本当の覚悟とは、逃げないことです。自分の立っている場所を引き受け、今日できる一歩を、丁寧に踏み出すこと。

丙午は、勢いの年ではなく、「腹を決める年」といえます。

【高家寺の特徴⑳】
縁を結ぶ寺

高家寺は、加納に移ってきた戸田松平家の房姫（二の丸殿）の発願です。彼女の両親は房姫が生まれてすぐに亡くなりました。徳島城西御丸に隠居していた外祖父・蜂須賀家政卿に引き取られます。その家政が逝去した翌年に、兄の領地である美濃国加納の地に高家寺を建立。祖父家政と、戸田松平忠光と、母辰姫の菩提を祈って建立されたようです。

加納弘法として近隣の信仰を集め毎月二十一日には市が立ちました。また犯罪者が不動明王の前に出ると金縛りにあったと、尾張藩の学者の日記に記されています。

家政は江南市古知野出身。私の曾祖母も古知野出身。地縁に導かれ、私は住職になったのかもしれません。まさに縁を紡ぐお寺です。

真言読誦のお寺

ここでの真言読誦は、ただ耳で聞くものではありません。心で感じ、身体で共鳴する体験そのもの。真言の響きが境内の空気を震わせ、風となり、光となり、全身で「祈り」を受け取る瞬間があります。その瞬間は、過去の仏たちと未来の私たちが交わる場のようでもあります。

高家寺に来れば、日常の喧騒から離れ、真言の響きに耳を澄ませ、心の奥底に平安をきっと見出すことができるでしょう。この特別な体験こそが、高家寺ならではの魅力です。ぜひ一度、真言が紡ぐ祈りのひとときを味わいください。



近日中の行事

二月二十一日（土）十時～
月例**弘法大師報恩日**

二月二十八日
月例不動護摩はお休みです

三月二十一日（土）十時～
月例**弘法大師報恩日**
春彼岸・正御影供養

三月二十八日
月例不動護摩はお休みです

四月三日（金）十時～
月送**桃花祭上巳節供**

四月二十一日（火）十時～
月例**弘法大師報恩日**
月送**正御影供**

四月二十八日（火）十時～
月例**不動護摩　再開します**

五月五日（火）十時～
月送**立夏四恩会**

【住職のつぶやき】

☆火災のお詫びを改めて

昨年の火災により、多くの方にご心配とご迷惑をおかけしました。改めて心よりお詫び申し上げます。一つの建物を失うという出来事は、「元に戻すこと」よりも、「これから、どう在るのか」を問いかけてきました。高家寺は、急ぎません。派手な復興もしません。しかし、覚悟をもって進みたいと思います。

檀信徒お一人お一人とともに再建できればと思います。

☆地蔵菩薩

昨年の火災の後、思いがけないご縁がありました。京仏師櫻井覺山さんより地蔵菩薩をお譲りいただいたのです。

地蔵菩薩は、目立つ仏さまではありません。しかし、もっとも人に近く、もっとも黙って寄り添う仏さまです。

火事の後に、この地蔵菩薩が高家寺に来られたことを、私は偶然だとは思っていません。

自らは燃えたにもかかわらず本堂を護っていただいた鎮守・真清田神。そしてお移りいただいた日は地蔵尊のご縁日十月二十四日、父の命日でした。高家寺を創建した房姫がそうであったように、派手さはなくとも、人の痛みのそばに在る覚悟。それが、これからの高家寺の姿なのだと地蔵菩薩が教えてくれているように感じています。



☆寺子屋で最先端の塾教材

AI技術を利用した最先端の塾教材 atama+を高家寺の寺子屋で導入しています。一人ひとりのペースに合わせた学習が可能です。高家寺の寺子屋は、全てを教える学習塾ではありません。弘法大師のように「一隅を示す」、一例を示しますが、自分自身のチカラで立ち上がる基本を教えています。ですから学年が上がるほど成績を上げていきます。

対象　新小学四年～新中学二年
興味がある方は高家寺までご連絡ください。

※各務原市那加蘇原稲羽地区では高家寺寺子屋「磨鑌塾」のみがatama+採用している唯一校です。

☆弟子

高家寺も弟子が増えてきました。ありがたいことに、年令を重ねているにも関わらず高野山真言宗の難関である正式な試験にも合格してくれた弟子も出てきています。檀信徒の方々にも、私と弟子たちと共に歩んでいただければ幸甚です。

☆母が逝去

私の母が一月６日に逝去しました。生前にお世話になった方々には感謝しますとともに、私が僧侶に成る前後も温かく見守ってくれた母に感謝して送り出すことができました。ありがとうございます。

高家寺からのお願い

☆自分は分家とか、特に決まった宗旨宗派はないとか、弘法大師空海が好きという方々、また将来葬儀をお願いしたいとか、先祖供養をしたいと思われている方、自分の本尊を知りたいと思われている方々は

e-mail **osho@kokeji.com**
TEL058-371-2821
FAX058-383-6328

までお尋ねください。尚、葬儀に関して、院号料戒名料などを別途で請求することはありません。あくまでも自分たちが納得できる範囲でお布施願います。